

2023 年度第 1 四半期決算説明会 主な質疑応答

1. 航空・宇宙・防衛における今年度の営業利益見通しについて

- ・ PW1100G-JM の耐久性向上対策を進めている中、人手不足等によりサプライチェーンが不安定な状態であり、部品交換の遅れが発生している。
- ・ 上記に加えて追加検査対応費用についても影響を業績見通しに織り込んだが、為替影響もあり、2023 年度通期見通しに変更は無い。また「グループ経営方針 2023」の 3 か年の累計損益においては、スペアパーツ売上の増加も見込まれ、本影響は解消される見通し。
- ・ 業績見通しに織り込んだ影響は、サプライチェーンに起因する影響額が大半を占める。

2. PW1100G-JM お客さまへの出荷済みエンジンの一部部品の追加検査について

- ・ PW 社担当の粉末冶金素材の製造過程で生じた不具合に起因するもの。最近の整備搬入時の検査結果から得られた知見に基づき、検査のタイミングを早める必要があると判断された。
- ・ 現在、検査対象となるエンジンの特定や検査範囲の確定等、検査計画確定に向け至急取り組んでいる。
- ・ 上記の過程において、直近で取り卸して検査が必要となるエンジン基数は絞り込みが進められており、またこれまでの検査結果より本問題に起因して部品交換が必要となる割合は非常に低いため、部品交換回数および交換に要する費用は限定的と考えられる。

3. 1Q の業績、営業利益についての評価はどうか。

- ・ 全体としては会社計画を上回って推移している。
- ・ 資源・エネルギー・環境：原子力事業の工事が減少しているが、今後はカーボンソリューション事業を中心にライフサイクルビジネスが積みあがってくる見通し。
- ・ 社会基盤：工事の原価先行算入により、一時的にコストが先行しているが、年度内にコスト見合いの請負金を確保できる見通し。
- ・ 産業システム・汎用機械：車両過給機の販売台数も含め、概ね計画通りの進捗。
- ・ 航空・宇宙・防衛：前述の問題はありながら、スペアパーツ販売の回復、為替影響もあり、堅調に推移。

4. 資機材高騰などに対する価格改定による収益の改善効果をどのようにみているか？

- ・ 大型プロジェクトについては、今後のコスト上昇リスクを見込んだ価格提示、エスカレ条項の契約への織込み等によって価格転嫁を進めている。
- ・ 量産品については、材料コストの価格転嫁はある程度進んでいるが、エネルギーコストや人件費等の転嫁については、引き続きお客さまとの交渉を続けている案件が多い。

以上